

2010 年度報告書（研究員）

氏 名	于 海濤（う かいとう）
職 位	2010 年度 GCOE 研究員
<p>研究概要</p> <p>テーマ：持続可能な発展への中国都市の環境ガバナンス</p> <p>ー中国の環境政策と都市の持続可能な発展のメカニズムに関する研究</p> <p>経済発展と環境保全との相克が明確になる地域は、アジアである。その中でもとりわけ中国の高速な経済成長と地球環境のあり方は世界で最も注視される。中国の実質経済成長率（GDP 成長率）は 2003 年以降 2 けた高度な成長を続け、世界範囲な金融危機の中でも、今年の予測目標 8% を着実に達成できると予測されている。工業化と都市化は中国の経済成長の原動力である。中国工業の GDP に占める比重は 40% 以上で、すでに世界一の工業製品の生産国となっている。都市化率は 2008 年末までにすでに 45.7% に達し、さらに 2020 年の都市人口は 8.7 億人、都市化率約 58% に達すると予測されている。しかし、加速的な都市化は経済を促進していると同時に、経済発展にマイナス影響をももたらしている。大気汚染・水質汚濁などの環境問題による経済被害は GDP の 5-7% を占め、さらに現在の約 6 億人の都市住民の生存と健康を脅かし、社会・経済の発展の大きな制約にもなりつつある。中国は 13 億人がいて、1 人当たりの紙の消費量が仮にアメリカ並みの水準に上げられれば、地球の 4 倍もの森が必要になる。自動車の消費量が仮にアメリカ並みの水準に上げられれば、車のバッテリーを作るため、今の全世界貯蔵量の 3 倍のなまりが必要になる。しかも、これらの多くの人々が利便性を求めて都市に住むことを求め、都市が増大するとともに巨大化していくことである。これらの大都市を中心にして、大量のエネルギーの消費量は、生産、消費、移動などを通して急増して行くことは必至である。21 世紀にあっては、都市の進展とエネルギー消費のバランスが厳しく問われている。将来に向けて、中国政府が 2020 年までに経済規模を 2000 年の 4 倍にする目標を立てたが、それに伴って都市環境と地域環境、地球温暖化問題がさらに深刻化する恐れがある。</p> <p>この運命を握っているのが「都市」であり、足元から持続可能な発展を実現し、持続可能な社会をつくっていくことである。都市の環境をどのようにして維持、改善、向上させて地球環境と共生していくことができるか、その課題に応える方法のひとつは、持続可能な都市の形成に向けた環境ガバナンスの戦略的なアプローチと革新的メカニズムを提示・検討することである。本研究は、中国の北方における重工業の都市瀋陽、大連及び北京の都市ガバナンスに関する事例を取り上げ、検討することである。</p>	

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

「気候変動対策における日中環境協力——日中鉄鋼業を中心として」『社会システム研究』

第 12 号、p.103-114、2009 年 2 月

「北京市における自動車排ガス汚染対策と課題」『社会システム研究』第 13 号、p.43-55、

2010 年 3 月

「中国の都市環境ガバナンスに関する研究—北京の自動車排ガス汚染対策を事例として」

環境経済・政策学会 2009 年大会 2009 年 9 月 26 日～27 日 千葉大学（口頭発表）